

2025 年度 事業計画書

社会福祉法人 ころ

(令和 7 年 3 月 25 日作成)

目 次

1 法人の理念と運営方針	・ ・ ・ ・ ・	1
(1) こころの理念		
(2) 私たちが目指す姿		
(3) 活動目標		
(4) 事業の運営方針		
2 2025 年度の法人全体の重点目標	・ ・ ・ ・ ・	3
3 事業別事業計画		
(1) 就労継続支援B型事業		
ア きやらふる	・ ・ ・ ・ ・	5
イ りなむ	・ ・ ・ ・ ・	6
ウ らしく	・ ・ ・ ・ ・	6
エ あじさい	・ ・ ・ ・ ・	7
(2) 相談支援事業	・ ・ ・ ・ ・	8
(3) 自立生活援助事業	・ ・ ・ ・ ・	9
(4) 地域活動支援センター事業		
ア ココカラ（島田市）	・ ・ ・ ・ ・	10
イ はぐるま（牧之原市）	・ ・ ・ ・ ・	11
(5) 圏域スーパーバイザー事業	・ ・ ・ ・ ・	12
(6) 基幹相談支援センター事業	・ ・ ・ ・ ・	13
(7) 事務事業（法人本部）	・ ・ ・ ・ ・	14

1 法人の理念と運営方針

社会福祉法人こころの理念と運営方針は以下のとおりです。

この理念と運営方針は、法人の適正な運営、毎年度の事業方針と事業計画、日々の支援の基本となるものです。

(1) こころの理念

個の尊重（尊厳）

人間ひとりひとりの存在意義のその価値を考え、お互いをかけがえのない存在として認め合えること

人権の擁護

日々の出会いは支援を求められての出会いであることから優越感や支配感をもってしまう落とし穴があること、権利意識の感覚は錆びやすいことなど変化を自覚しながら、その都度自らの答えを持つこと

自己決定の尊重

その人が自分で決めたことだから自分で責任をとることではなく、その決定に至るまでのかかわりのプロセスを大切にすること

(2) 私たちが目指す姿

一人ひとりを価値ある存在として尊重し、多様な生き方を認め合うことができる持続可能な社会

(3) 活動目標（具体的な取組方針）

ア ストレngth志向に基づく一人ひとりの可能性の探求

イ 支援する・される関係性を脱却し、互いに支えあい、認め合うことができる関係性の構築

ウ ピアサポートを基盤としたリカバリーの推進

エ 住みたい場所で住み続けることができる地域の創造

オ 互いが主体的な存在として認め合い、協働することのできる社会の実現

カ 一人の人間としての尊厳が守られる社会の追求

(4) 事業の運営方針

ア 就労継続支援B型事業

その人の想いや願いから“自分らしい働き方”へ！

(ア) きやらふる

令和7年度から「こむぎ」と「ドレミ」が合体して「きやらふる」としてリスタート！施設外就労や施設外支援を中心に喫茶の運営、自主製品の開発など新たな働き方をメンバーとともに創造していきます。

(イ) りなむ

パン・焼き菓子・化粧石けんの製造・販売、カフェ、下請け作業、事業

所外での清掃作業、イベント参加等、様々な作業やものづくりを行っています。

(ウ) あじさい

メンバー・スタッフ・ピアスタッフみんなが主役！個性や得意を活かして働いています。地域とのつながり、仲間同士の支え合いを大切にしています。

(エ) らしく

明るく広い建屋で、菓子ランチ製造・軒花などの自主製品に力を入れています。販売やイベントを通して、仲間・地域とのつながりを大切にしています。

イ 相談支援事業

(一般相談、指定特定相談、指定一般相談（地域移行・地域定着）)

“自分らしく”をともに考え、地域をクリエーション！

自分らしく暮らす“権利”を守り、一人ひとりの夢が実現される地域をすべての人たちと進めます。

ウ 自立生活援助事業

その人らしい暮らしをデザインするオーダーメイド支援！

一人暮らしなどをしている方の自宅を訪問し、気持ちに寄り添いながら地域で自分らしく安心して暮らし続けることを一緒に目指します。

エ 地域活動支援センター事業

“ありのまま”の自分で“それぞれ”の時間を

(ア) ここカラ

“こころ”と“カラー（個性）”とリスタートで「ここカラ」と名付けました。自分のペースで利用ができ、みんなで創り上げていくわたしの居場所です。

(イ) はぐるま

おひさまの暖かさ、空の青さを感じながら仲間と過ごすことができる心地良い場所です。ゆったり、ほっこり、あったかく…。

みんなで作った看板が今日も仲間と待っています。

2 2025 年度の法人全体の重点目標

(1) はじめに

社会福祉法人となって3年目は、1年目のコロナ禍の影響が残る中で新規事業所として位置づけられたことにより、特定非営利活動法人時代の実績はいかされず、厳しい収支状況でのスタートとなりました。2年目の昨年度は、本来の事業展開を実施できる環境であると同時に、報酬改定の年とも重なり、十分な収益を見込める年でありました。しかし、障害福祉サービスをめぐる様々な状況の変化もあり、ニーズにこたえるのみでは収益への反映は見込まれないという厳しい収支となりました。そこで、3年目の今年度は、法人としての理念を活動の基本に置きながらも、今の時代だからこそ生まれてくるニーズやそれに対して広く求められる力量をつけるための構造化を図っていきます。さらに、それらの活動を展開できる事業のさらなる強化と収益に反映できる安定的な組織体制につなげていくことを目指します。

(2) 年間の重点目標

ア 健全経営

法人経営の3要素（スタッフ満足、メンバー満足、経営満足）を基盤とし、一人ひとりの活動が事業運営に活かされ、結果につながる経営を目指します。

- ・事業実施目的に即した加算の取得、そのための体制構築を推進します。
- ・求められるニーズに合わせ、事業所間の連携をはかりながら利用者・登録者の増、及び利用率の増につながる取組を検討し実施します。
- ・各事業の目標や具体的な取組を共有することで、全体で補完しあえる体制を継続します。

イ サービスの質の向上

それぞれの役割を果たすことができる支援者としての力量（支援技術や知識等）を継続的に高めていくことを通して、より質の高いサービスの提供につなげます。利用者にとってよりよい物理的環境を整えます。

- ・支援が求められる対象者の広がりや変化に合わせた支援が展開できるために、新たな知識や技術を習得できる機会を提供します。
- ・什器をはじめとした配置の点検や補充を検討します。
- ・災害時に対応できる物資等を含めた物理的環境を整えます。

ウ 組織体制の見直し（中長期）

組織力を高めるためには、一人ひとりの力を高めるだけではなく、多様な人材の力をチームとして機能する組織管理力が求められます。多様な人材を活かす柔軟性や発展性を高めることを目指します。

- ・キャリアパスを活用した人事考課をもとに、法人の理念、方針、事業目標と評価基準の整合性を図ることにより、組織強化に努めます。
- ・組織強化を図るために、明確な役割と責任のもと相互に連携するための取り組みを行います。
- ・法人の理念と運営方針に基づいた「事業計画」と「人事考課制度」の連動性をキャリアパスを活用して取り組みます。

エ 人材育成・研修体制の構築

法人の戦略の遂行や事業を推進する役割を担うことと同時に、地域づくりへ参画、あるいは主体的に展開できる力をつけていくことを目指します。

自らのキャリアデザインを描くことにより、支援者としてのアイデンティティの確立を図っていきます。

- ・アクティブラーニングとしてのグループ学習を継続し、キャリアや立場を超え、互いに学び合うことにより支援スキルの向上につなげます。
- ・スタッフ一人ひとりのキャリアに合わせた個人目標を設定し、具体的なキャリア形成につなげていきます。
- ・外部組織が主催するセミナーや講座等に参加することで支援の質の向上につなげます。

オ 地域貢献

インクルーシブな地域を目指していくためには、障害あるなしにかかわらず、ともに地域を創っていく活動が求められます。

- ・ダイバーシティ経営企業（2024年静岡県知事褒章）として、ピアスタッフの雇用促進を図るための啓発活動を行います。

3 事業別事業計画

事業別の事業計画は、事業・事業所ごとに上記の年度の重点目標を踏まえて、どのような取組を実施するかを定めています。

(1) 就労継続支援B型事業

ア きやらふる

・事業所概要	定 員：20 名 所在地：島田市島 581 番地の 14
・2024 年度の振返り (旧こむぎ)	新規 4 名、退所 6 名で、登録者数と利用者数は減少したが、一人ひとりのニーズや体調を踏まえ、環境づくりや多様な働き方をサポートする体制を整えた。利用者とともに作業ごとのミーティングを行い、作業方法や売り上げアップの工夫等について考えた。その結果、草取り作業は効率化を図ることができ、自主製品では特にねこにゃんミニポーチの売り上げが好調であり、利用者の意欲の向上ややりがいの充実につながった。また、地区の夏祭り等の地域のイベントに参加する機会が増えたことに加え、異業種交流会にも参加したことでさらに地域のとのつながりができた。
・2024 年度の振返り (旧ドレミ)	2024 年度は新規登録者の人数 2 名、終了者 3 名。 (就A、一般就労) 3 月時点で登録者 24 名(短時間トライアル雇用 1 名)。企業・A 型の見学・実習の機会を調整することが多く、就労支援に力を入れて取り組んだ。平均工賃 2 ランクアップ。 今年度、りなむより喫茶業務の運営を交代し、土日祝の開所日としたことで、働き方についての選択肢が広がったことと、工賃アップにもつながった。 きいちごの平日開所についてはスタッフの体制がとれず、来年度に向けて検討していく。 めだか事業については、イベント直前に大量死があり、地域の方の協力を得ながら開催することができた。移転により物理的な理由により事業としては縮小していく。 新事業所に向けて、こむぎと一緒に事業所名を決めたり、引っ越しの準備をしたり、一緒に取り組むことができて良かった。移転による作業プログラムの見直し、こむぎのサビ管と調整をした。
・2025 年度の重点目標	・個別支援や一般就労に向けた支援の強化。 ・自主製品の売り上げを増やし、利用者の意欲の向

	上ややりがいの充実につなげる。
・ 具体的取組	・利用者のニーズに合わせた作業プログラムの拡充。 ・利用者のニーズや体調を踏まえ、通所しやすい環境づくりや利用者の希望に沿った作業が提供できるように、作業環境を整え、多様な働き方をサポートする。 ・施設外支援及び施設外就労等で利用者が活躍できる場や機会を増やし、働く選択肢を増やす。 ・利用者とともに新しい自主製品の開発や自主製品の販路拡大し売り上げを増やす。 (ネットの活用、注文販売の実施等)

イ りなむ

・ 事業所概要	定 員：20 名 所在地：島田市金谷中町 2100 番地
・ 2024 年度の振返り	・利用者が主体となってレクレーション等を決めていく取り組み（HAPPY りなむ会）を継続。バス旅行や「HAPPY りなむ春の市」を開催した。 ・自主製品事業では販売イベントに参加したり、地域での新たな販売先の開拓を行なった。
・ 2025 年度の重点目標	・利用者が主体的に活動できるような支援体制や環境づくりを継続 ・工賃向上の取り組み ・就労支援の取り組み ・自主製品の継続化
・ 具体的取組	・利用者の意思決定を尊重し、個別支援計画に基づき、様々な作業に挑戦したり、安心して通所できる環境づくりを行う。 ・「HAPPY りなむ会」の取り組みを継続して行う ・新たな施設外作業先の開拓を行う ・制度の活用や関係機関と連携を図り、「自分らしい働き方」を利用者と考えながら就労支援につなげる。 ・安心して消費していただける自主製品づくりを継続するとともに、作業工程の見直しや効率化に取り組む。

ウ らしく

・ 事業所概要	定 員：20 名 所在地：牧之原市菅ヶ谷 219 番地 1
---------	----------------------------------

・ 2024 年度の振り返り	2 名が就職につながった。IPS モデルを取り入れた就労支援を行い、ストレングスを活かした本人にあった働き方を共に考えた。就労ミーティングは継続しており、就労意欲や就労に対する関心を高め「自分らしい働き方」を考えるきっかけとなっている。また、働くことを切り口としたピアサポートの場にもなっている。 地域の店舗とつながり、障害の有無にかかわらず、共に地域を創る仲間としてインクルーシブなイベントを開催した。300 人を超える来客があり、福祉関係者でない方も多数来場し啓発につながった。また、らしく市を通して地域の店舗とのコラボ商品も生まれ、自主製品の幅が広がった。
・ 2025 年度の重点目標	・ 就労支援の強化 ・ 地域協働と啓発 ・ 新たな施設外就労先を開拓し、工賃向上を目指す ・ 就労支援、地域協働を魅力とした事業所を目指し、利用者数増につなげる
・ 具体的取組	・ 就労支援を通して、就労支援スキルの向上 ・ 榛原事業所とのコラボも念頭におきながら、地域の店舗とともに、より啓発を意識した内容でらしく市の開催 ・ 喫茶を通して、あじさいと協働しながら、販売力強化 ・ 生産性を生む施設外就労先の開拓をし、仕事の幅をひろげ、工賃向上を目指す ・ 個別支援を大切に、本人の力を活かした働き方をチームで考え、個々のリカバリーを応援する。事例検討や事例共有の時間の確保により、支援の質の担保と向上を目指す

エ あじさい

・ 事業所概要	定 員：20 名 所在地：牧之原市細江 701 番地 4
・ 2024 年度の振り返り	・ ワゴン市を 2 回行った。お客様の傾向が分かり、子供たちが楽しめるような工夫が効果的だった。回数を重ねる事で慣れてきて、メンバーが楽しみながら積極的に接客できるようになった。ワゴン市のお客様がこころ市に来場してくださり、こころを地域の方に知っていただく事につながった。

	・らしくと協働して喫茶ル・ヴェールでの喫茶作業を開始した。月曜日はあじさい、水曜日はらしくが、それぞれの特色を活かして喫茶を行った。地域のイベント等を通して地域の菓子店とつながり、販売をさせてもらった。また、週替わりのメニューが定着した事で、リピーターにつながっている。新規メニューの開拓をし、地域の農家とコラボしたスムージーの販売も行った。しかし、限定的な販売だったので、今後の展開について工夫したい。 ・はぐるまと合同のミーティングの中から、『こころのだいべんし』が生まれ、自主製品を通して、メンバーの思いやこころを知ってもらい機会が増えた。これをきっかけに、さらなる商品開発を考えたい。 ・多様な働き方を尊重した関わりの中で、就労した人や挑戦し続けるメンバーもいた。定期的な就労ミーティングや仕事体験の機会にメンバーが積極的に参加でき、自分と向き合い自分らしい働き方について考える事ができた。また、ピアスタッフ・スタッフが全員仕事体験に参加できた事により、就労支援について皆で考える事ができた。しかし、十分に振り返りの時間を持てたとは言えないため、研修の検討が必要である。
・ 2025 年度の重点目標	・ あじさいの特色を地域に広げる。 ・ 一人ひとりの働き方を応援する体制をさらに整えていく。
・ 具体的取組	・ 健康志向をテーマに自主製品について考える。 ワゴン市の継続と、外部のイベントも他事業所と合同参加が可能か検討していく。 ・ 就労ミーティングや、施設外の作業を含めたさまざまな働き方を考える中で、メンバーが、自分らしい働き方ができるよう、個別支援とグループワークを上手く活用し深めていく。

(2) 相談支援事業（相談室こころ）

・ 事業所概要	所在地：島田市島 581 番地の 14 ほか 実施事業：特定相談支援事業、指定一般相談支援事業、一般相談支援事業
・ 2024 年度の振り返り	相談室こころ全体としては、より地域の中心的な相談支援機関として一般社団法人たけのこ COCO サポ

ートと共同体制をとった。それにより、打ち合わせ回数を増やすとともに、当所ではかかわりの薄い障害児や発達障害についての理解を深めた。

また、官民協働体制の強化のため、地域自立支援協議会の運営・参画し、『地域生活支援拠点等』の設置に向けて重点的に取り組んだ。

『精神障害者地域生活訪問支援事業』、『入院者訪問支援事業』等権利擁護にかかわる事業については、研修会やケア会議等へ積極的に参加をし、ピアとの協働についても模索した。

指定特定相談では、共同体制により、障害者総合支援法の『機能強化Ⅰ』の体制整備をし、基本報酬アップを図った。また、ファイル整理に着手することにより、効率的な事務の一助をなることを共有した。

一般相談支援事業では、人工及び総合支援法上の委託相談の役割を踏まえ、個別支援と協議会運営のバランスについて官民で協議することを共有した。

・ 2025 年度の重点目標

1. 官民協働体制の強化
 - (1) 『地域生活支援拠点等』の体制整備
 - (2) 次期計画策定を見据えた協議会活用
- 個々のスキルアップと学び合う体制の構築

・ 具体的取組

1. 官民協働体制の強化

相談支援体制全体の協議と併せ、一般相談支援における個別支援と協議会運営のバランスを官民で協議する。重曹的支援体制整備については積極的ににかかわり、発達障害やメンタルヘルスに対応できる相談支援体制は継続協議とする。
2. PDCA サイクルに基づく各種計画と協議会の連動

PDCA サイクルやサービス利用及びサービス等利用計画作成の実績を根拠に現実に即した次期計画策定を見据え、それぞれの立場にて協議会を活用する。

(3) 自立生活援助事業（ことのは）

・ 事業所概要

所在地：島田市島 581 番地の 14

・ 2024 年度の振り返り

定期訪問だけでなく、受診同行や外出支援など、その人に合ったオーダーメイドを実施。ピアスタッフ、支援員の専門性の違いを強みとして、サービス提供に努めた。

利用者数はほぼ横ばいだったものの、事業及びサービス内容が浸透されていないため、新規利用の相

	談があまりないことが継続した課題である。 実地指導では、県担当者から支援や記録の取り方などに一定の評価が有、支援に対する自信につながった。
・ 2025 年度の重点目標	1 関係機関等への事業の周知 2 安定的な事業の運営 3 社会活動による普及啓発
・ 具体的取組	1 関係機関等への事業の周知 ・ 地域定着支援とのすみ分けを行い、よりオーダーメイドの細かな支援を行う ・ 地域定着を含めて、地域でくらし続けることを応援するサービスであることを自立支援協議会やホームページ等も活用し、周知していく 2 安定的な事業の運営 ・ 制度理解や質の向上につながる法人内研修を実施 ・ 相談支援専門員との連携によるニーズの掘り起こしや地域生活支援拠点等との連動を図る 3 社会活動による普及啓発 ピアスタッフによるリカバリーストーリー等の研修講師を通じ、地域での理解促進に努める

(4) 地域活動支援センター事業

ア ここカラ（島田市）

・ 事業所概要	島田市補助事業 所在地：島田市島 581 番地の 14
・ 2024 年度の振り返り	相談担当からの紹介や利用を再開した人が多くなり、全体の利用者数が増えている。多様な個性がある中で、それぞれの目的で利用しながら過ごしている。その中で仲が良いメンバーで固まっている状況も見られるが、一方で他の人とも関り、お互いを共感し合う雰囲気や声掛けなどのピアサポートの体感もある。また、ピアスタッフが地活に配属されたことにより、支援に対する視野が広がった。 また、ここカラの活動を通して地域の方との交流を持つことができ、普段道で会うと地域の方から声をかけてもらえることもあった。イベントを行うことと日頃からの地道な取り組みを積み重ねていくことの重要性を実感できた。 金谷中学校とのベルマーク集めの活動を活かして

	更なる活動を検討となっていたため、学校と連絡を取り合ったが、今後の活動を継続していくことの難しさを感じた。
・2025年度の重点目標	1 地域活動支援センターの中でピアサポートを体感し続ける。 2 ただ自分たちを知ってほしいという一方的な地域啓発の形にせず、地域の方とお互いに知り合う機会を作る
・具体的取組	1 ・メンバー同士の深いかかわり合いを増やしていくような意識したかかわりを行う。 ・地活会議にてピアサポートについてスタッフが感じたことを共有 ・「障害についてちょっくら話そう会」の継続 2 ・地域貢献についてスタッフ間でもっと具体的な話し合いをしていく機会を持つ。 ・サロン内の活動に留まらず、外に出て地域の方と顔見知りになる。 ・通信のポスティングする場所を増やす。(メンバーからも声が挙がっている) ・地域のイベント(島夏祭り)に裏方として参加していく。

イ はぐるま（牧之原市）

・事業所概要	牧之原市補助事業 所在地：牧之原市細江 701 番地 4
・2024年度の振り返り	ピアスタッフとスタッフが配置されていることでその両者の専門性を活かしたかかわり合いができた。また、継続して取り組んでいる事業所内の語り合いだけでなく、牧之原市民を対象としたピア交流会を実施したことにより、ピアサポートを体感する機会を事業所内外に広げることができた。 こころ市を年2回開催した。目的としている啓発活動として、メンバーとともに語り合いを通して出てきた自分たちの言葉が形となり「こころのだいべんし」としてこころ市で発売できた。これにより1人ひとりのリカバリーを促進するきっかけとなった。新規の見学者は増加したが、継続した利用には繋がらないケースが多かった。それは障害特性が関係していると考えられるが、人との繋がり誰しもが求めていることを感じた。居場所として、はぐるまが存在

	し続けることの重要性を引き続き考えていきたい。
・ 2025 年度の重点目標	1 ピアとの協働の中で、一人ひとりのリカバリーを促進する。 2 障害の特性を活かしたかかわり合いについて考えを深める。 3. ピアサポートを体感し続ける。
・ 具体的取組	・ ピアスタッフとスタッフのそれぞれの専門性を活かし安心できる居場所であり続ける。会議や振り返りの時間を活かし、その人を多面的に捉えることができるようになる。 ・ ころ市を継続し地域との繋がりを実感する。 ・ 牧之原市でピア交流会の継続開催。今年度は相良地区でのピア交流会を開催する。

(5) 圏域スーパーバイザー事業

・ 事業所概要	静岡県委託事業 所在地：島田市島 581 番地 14
・ 2024 年度の振り返り	①福祉人材のキャリア形成の機会を創出する。 ・ 圏域相談支援部会において、相談支援専門員の専門的な視点を獲得できるように、昨年度からの継続的な学びとして「ストレングス志向からセルフケアマネジメントについて」当事者の語りから学ぶ機会の企画に参画した。 ・ 圏域部会全体を田投げての取組はできなかった。 ②各部会の効果的な運営及び中核メンバーを軸とした安定的な取組体制を構築する。 ・ 圏域で解決できることではなく、各市町協議会での取組に大きく影響する。地域づくりに参加ウすることの意義や意味についての共通した理解の推進を図る手立てが、圏域サイズでできることと考える。そのための、検討の機会を持つ高尾 t ができなかった。但し、事務局や各部会事務局のにおいて、共通の認識となっている。 ③圏域と県の協議会の有機的連動を模索する。 ・ 就労に関する意見交換会を継続的に実施することの働きかけを行い、実施することができた。 ・ 県との協働の難しさを再認識する機会となった。 ④その他 地域生活支援拠点等の整備に関する市町との協議を継続的に実施し、市町を超えて取り組む必要性の

	共通認識や具体的な動きにつながった。
・ 2025 年度の重点目標	①地域生活支援拠点等の具体的な整備につなげる ②圏域と県の協議会の有機的連動を実現する（特に就労分野） ③各部会の効果的な運営及び中核メンバーを軸とした安定的な取組体制を構築する ④福祉計画と協議会が連動性をもって活動することを目指す（次期計画策定につなげる）
・ 具体的取組	①運営・推進合同部会を活用し、市町を超えた整備の方法やルール等について協議の機会を持つ ②第 2 回意見交換会での内容が今年度につながるよう働きかける ③各部会での協議状況を踏まえ、各部会事務局会議及び圏域全体の事務局会議で調整を行う ④運営部会での協議内容を市町協議会運営につなげる

（6）基幹相談支援センター事業（メデル）

・ 事業概要	島田市、牧之原市、吉田町、川根本町委託事業 所在地：島田市島 581 番地 14
・ 2024 年度の振り返り	年度前半に、2 市 2 町委託相談支援事業所との意見交換から、相談支援体制全体の共有や協議会運営等のトピックに合わせて現状共有と課題整理を行った。 年度後半に、2 市 2 町の行政との意見交換を行い、委託相談支援事業所・行政ともに、委託相談が協議会運営と個別支援のアンバランスさがあること。相談支援専専門員の適正人数も見えづらいこと。令和 6 年度の報酬改定により、基幹相談支援センターの役割は【地域づくり】への比重が大きくなることから、次年度はこれらに基づき委託相談と基幹相談支援センターの役割を整理することを委託相談支援事業所及び行政と共有した。 【地域の相談支援体制の強化の取組】として各市町の地域自立支援協議会（以下、「協議会」）へ参画することを継続した。さらに、地域生活支援拠点等の協議や重層的支援体制整備にかかわる会議にも主体的に参加した。権利擁護に係る取組として、虐待対応の助言や成年後見センターとの連携を図った。
・ 2025 年度の重点目標	1 効果的かつ効率的な協議会運営

	2 支援者支援
	3 地域生活支援拠点等の整備及び実施について
・ 具体的取組	1 効果的かつ効果的な協議会運営 行政、委託相談支援事業所、基幹相談支援センターとそれぞれの機関における協議会運営の役割や取組み内容を協議・整理する。 2 支援者支援 ・ 各市町の相談支援部会にて GSV の機会を設定し、相互に学び合うとともに GSV を実施できる人材を確保する。 ・ 委託、指定特定、基幹に配置されている主任相談支援専門員の担う役割を整理する。 3 地域生活支援拠点等の整備 限られた資源での整備の完了及び実施に向け、官民協働での協議が図れるようバックアップを行う。

(7) 事務事業（法人本部）

・ 2024 年度の振り返り	社会福祉法人化後、2 年目となった 2024 年度は報酬改定の影響から、旧事業の単価が総じて増加したことから、収支の好転化が見込まれた。一方で最賃の見直しを始め、物価高騰、就労継続支援 B 型事業の利用者数の減少の影響などが影響し、収支見込は当初を大幅に下回る結果となった。 静岡県社会福祉法人指導監査では、一部経理書類に指導事項が生じ、様式等の見直しを実施した。
・ 2025 年度の重点目標	1 効率的な書類の整備と作成 2 収支状況の適切な把握と見直し 3 事務処理の負担軽減
・ 具体的取組	1 県指導監査の受検結果を踏まえ、必要書類の徹底した作成、保管、内容や必要性の再確認を行い、量と質の見直しを行う 2 報酬改定が反映されたものの、給付費収入実績は見込みほど伸びず、収支は厳しいことから、既定経費を含めた支出の一層の見直しを図る 3 作成書類の増加、監査体制の強化等に対応するため、各事業所の事務の負担が増加傾向にある。事務処理を法律に則り、かつ負担の大幅増にならないよう、本部で一括処理すべき業務か、各事業所での処理したほうが効率性が高いのかを検討した上で、所掌の見直しを実施する。